

# 公益社団法人新潟県栄養士会 2023 年度第 2 回理事会 議事録

## 1 日 時

2023 年 6 月 17 日（土） 午後 1 時から午後 4 時 30 分まで

## 2 開催場所

新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター 大研修室

## 3 理事数に対する出席理事の数

25 名中 23 名出席 本日の理事会は定足数を満たしている

## 4 理事の出欠について

折居 千恵子	○	石澤 幸江	○	渡邊 修子	○	柄沢 弘子	○	北林 紘	○
鈴木 敏美	○	長谷川 美代	○	山田 祥子	○	近藤さつき	○	久志田 順子	○
星野 侑子	○	熊倉 利江	○	津軽 智子	○	青木 章子	×	佐藤 峰生	○
村山 真由美	×	梶谷 友美	○	本間 信子	○	小川 佳子	○	山川 琴栄	○
江口 公子	○	小林 昌子	○	久保 尚子	○	渡辺絵里子	○	村山 稔子	○

## 5 その他関係者の出席

逸見 幸恵 (健康づくり支援課)	○	稲村 雪子 (顧問)	○	入山 八江 (顧問)	○	角谷ヒロ子 (監事)	○	大平 真由美 (監事)	○
千原 薫 (十日町支部代理)	○	今井 恵 (柏崎支部代理)	○	阿部 幸子 (事務局長)	○				

## 6 開会

折居会長挨拶

## 7 新潟県からの情報提供

新潟県福祉保健部健康づくり支援課

健康立県推進班 逸見 幸恵 氏

「健康立県プロモーション事業

～令和 5 年度の取り組み～」

## 8 議長選出

○理事会運営規則第6条第1項に則り、理事会の議長は会長が務める。

## 9 議事

### (1) 協議・報告事項

#### ①各業務執行部からの事業計画

##### ①-1 研修部 村山部長より説明があった。(資料①-1)

- ・役員会は4回を予定しており、生涯教育検討会は各事業部長、事務局を加えて11月に1回開催する予定。
- ・生涯教育検討会では次年度の計画立案を行う。今年度の状況により運営方法を検討し9月に実施方法を決定し、各事業部長に計画書の作成を10月末締切で依頼、11月に案を作成する。
- ・新入会員研修については7月に開催時期・方法を決定する。
- ・県の委託事業である栄養士研修会は日栄の鈴木志保子先生の依頼を考えている。期日についても先生と調整し7月には決定する予定。12月の役員会では次年度の計画作成を行う。
- ・TNT-Geri-Dについては県栄HPに案内が掲載されている。
- ・認定栄養士・管理栄養士、生涯教育基本研修について会員へ周知する。

○研修部からは報告事項のみであった。

##### ①-2 学術部 長谷川部長より説明があった。(資料①-2)

- ・第24回新潟栄養・食生活学会 学術集会は2023年12月9日(土)新潟テルサ大会議室にて行う。特別講演のテーマは「脳腸相関」、講師は検討中。  
演題募集を7月中旬から8月中旬に行い、10月上旬までに抄録を提出してもらい、11月上旬に講演集を印刷する。  
他職種2題は新潟県保健所長会と新潟県歯科医師会より提出してもらい、養成校2題は新潟医療福祉大学と国際調理製菓専門学校に提出して頂く。栄養士会から6題お願いしたい、エントリーをお願いしたい。できれば各事業部より1題提出していただきたい。
- ・今後の学会運営については、現在の形での学会は2023年度で終了し、2024年度からは県栄養士会を母体とした運営になることを学会員、賛助会員、栄養士会員に周知する必要がある。

○学術部からは報告事項のみであった。

##### ①-3 事業部 小林部長より説明があった。(資料①-3)

- ・新潟県栄養士会 JDA-DAT スタッフ養成研修について3日間の研修を予定している。  
1日目 7月22日(土)か7月30日(日)どちらか1日Web研修  
2日目 8月6日(日)か8月19日(土)どちらか1日Web研修  
3日目 10月21日(土)新潟テルサにて開催。  
受講料は3500円(受講料3000円+災害食試食実費500円)

カリキュラム、流れは資料の通り。

現在申込者 11 名、30 名を目標としている。

・非常災害対応マニュアルの改訂については昨年度より検討委員会を開催し①支援基準に関する規程見直し ②組織体制の見直しについて討議してきた。

今年度は ③アクションカードの見直しの完成 ④連絡体制の確立（災害時連絡網）

⑤新潟県防災訓練への参画について次年度からの計画の立案を行う

## 質問

山川理事

現在地域活動事業部では連絡網をグループラインで行っている。今後連絡網の方法を各支部・職域事業部で決めていくのか、県栄の統一された形で進めていくのかを今後検討されていくのか。

小林部長

支部、職域の構成人数によっても一律に簡単には決められないと考えている。各支部長、職域部長、県栄と相談をしてまとめていきたい。

北林理事

メールでのやり取りはセキュリティーの問題で中止となっているが、それとは別に連絡網を作るということか。

小林部長

あくまで緊急事態での連絡網であるので、個々了解を得て作成していかなければならないと考えている。

小川理事

今後のリーダー養成研修、スタッフ研修の計画はどうなっているか。

小林部長

リーダー養成研修は日栄で開催する。スタッフ研修を毎年開催するか、2年に1回程度とするか今後検討していく。

阿部事務局長

現在申込者は 11 名である。災害が発生すると県からの支援体制に支部長は窓口になることもありうることである。そのためには JDA-DAT のシステムを十分理解をしてほしい。可能な限りこのスタッフ養成研修に支部長は受講をしていただきたい。

○事業部からは報告事項のみであった。

①-4 広報・情報部 山川部長より説明があった。(資料①-4)

- ・ 県栄 HP については活動紹介の整備を行い 2022 年度分までは報告を UP した。  
2023 年度からはフォーマットを統一し役員名簿、予定、報告の UP 作業を行う。  
また指南書の作成も行っている。  
今年度は現在上がっている情報の整理を進める。
- ・ 機関紙栄養新潟については、'23vol. 55 を発刊した。  
本来機関紙の目的は活動内容・方針などを発表・宣伝・連絡するもの。これを振り返ると活動の内容が過去の内容に偏っており、現在・未来の内容については発表されていなかった。  
今後の「栄養新潟」について①内容を過去の活動報告だけではなく、現在・未来の活動（予定や展望）を載せる。②「栄養新潟」に総会資料を盛り込む。（大阪府、千葉県、兵庫県はこの形） ③発刊時期を 5 月にする。④図、写真を多用し視覚から見てもらえる機関紙を目指す。  
メリットは栄養士会の情報を 1 冊に集約でき、経費節減、年度初めの発刊は年度末より熟読してもらいやすい時期である。デメリットは発刊時期が変わることにより、機関紙の発刊作業と総会資料の作成時期が重なる。また 1 冊のボリュームが厚くなることが挙げられる。
- ・ '24vol. 56 はトピックスに「災害対策について」「地域ケア活動」を考えている。  
支部・職域だよりはそれぞれの特徴をだした内容にしてもらいたい。

#### 質問・意見

##### 入山顧問

活動報告だけでなく、未来の展望がある機関紙を目指すことは非常にいいことだと思う。

##### 北林理事

提案の内容でいいと思う。写真などカラーで掲載できるといい。

##### 山川部長

カラーの掲載はコストが上がるので難しいと思うが、栄養新潟のデジタル版でカラーを見られるようにすることも考えられる。

##### 鈴木理事

支部交流会で各職域から発表してもらおうが、その内容でもよいか。

##### 山川部長

発表内容は HP でも掲載されるので、役員が支部交流会に取り組んだこと、課題などを掲載しても良いのではないか。

##### 星野理事

役員と相談しながら作成していきたい。

##### 熊倉理事

今までは面白みがないと思いながらも前例に合わせて記事を書いてきたが、新たな取り組みは非常に良いと思った。

##### 佐藤理事

これからの展望を書いていくことはとても良いことだと思う。但し作成時期は忙しい時期なるのではないかと思った。

今井柏崎支部長代理

支部に戻り、支部長、役員と相談していく。年度末の作成は避けて頂きたい。

千原十日町支部長代理

報告は毎年同じことの繰り返しになってしまうが、この取り組みであれば新しいことに取り組んで行こうとも考えられるので、支部に帰って検討したい。

榊谷理事

HP と機関紙を上手く使い分けて行っていくのが良いと思った。

本間理事

発刊の時期が変わるということで活動報告の違った書き方ができるので良いと思った。

山田理事

機関紙のなかに総会資料が入るとリンクして見られるので良いと思う。作成が間に合うかが心配。

近藤理事

今までの機関紙は面白くなかった。資料や、今後の展望があれば見るだろう。

写真はカラーがだめでも、モノカラーはどうか？全部でなくても引き付けたいところには効果的ではないか。

渡辺理事

会社でも広報誌は魅力がないと言われている。情報が入ることはいいと思う。

新役員名簿が掲載されるといい。

江口理事

今までと同じように記事を作成してきた。固い報告事項であった。見たくなる紙面をめざして取り組みたい。

久保理事

過去に習って記事を作成してきたが、今後は展望、考えを入れて書いていきたい。

発刊時期が変わると、配布対象者はどうなるか。

折居会長

総会資料の配布にも同様な問題が生じているので、税理士と相談して検討する。

小川理事

未来志向の方向性は良い。詳細を詰めていく必要あり。

久志田理事

方向性は良い。内容の精査をして厚いものにならないようにし、カラー刷りが可能となるよう検討してほしい。時間を取って問題点、提案をしてもらい、作成の日程づくりをしていくといいのではないか。

小林理事

方向性よい。医療現場でのノウハウなど細かい情報が載っていると見ると思う。

長谷川理事

良い提案だと思う。過去から未来へ前向きな体制に持っていくことはいい。

総会での特別講演の講師を紹介や、HOW TO ものがあったといい。

津軽理事

今までの機関紙の不要なものを削り、いいところを残して見てもらえる機関紙を作ってい

けばいいと思う。

稲村顧問

年度末に活動報告をする機関紙と年度初めに作る総会資料を融合することにそれぞれの特質を考えると無理があるのではないかと思うが、活動報告をHPに随時掲載する今は、時代の変化とともに新たな取り組みを行う時期ではあるのかもしれない。

すでに行っている大阪、兵庫の機関紙を見せてもらい、いいものを作っていくのはどうか。今日の理事会では方向性について承認をとるようにし、検討していったらどうか。

角谷監事

総会資料が厚くならないよう、詳細はHPに載せるなどして時間をかけ検討していった方が良いのではないか。

大平監事

前例に捕らわれず、毎回工夫を凝らして作成してもらいたい。

### ○機関紙「栄養新潟」について

過去の活動、現在・未来の活動（予定や展望）、方針を内容に盛り込み、視覚に捉えるような機関紙づくりを目指し、「栄養新潟」に総会資料盛り込み5月に発刊する方向性について理事より同意された。

#### ①-5 栄養ケア・ステーション部 久志田部長より説明があった。（資料①-5）

- ・在宅訪問栄養食事相談事業について、今年度訪問対象者100人程度、フォローアップ訪問対象者40人程度を予定している。栄養指導担当管理栄養士は県ケア・ステーション登録者に募集をかけ23名を予定。事業費は5,980,200円、2名のコーディネーターを2日/週配置し対応する。
- ・在宅医療（栄養）推進事業は今年度より新たに3年計画で行う。  
要介護高齢者等の栄養状態の維持・改善のため、切れ目のない適切な栄養ケアの提供を行う。効果的な治療、重症化予防、自立支援につながる、リハビリ・口腔管理・栄養管理の一体的運用のために多職種と協働した栄養管理が展開できる連携ツールの充実を図り、体制整備を推進することを目的とする。アウトカム、アウトプットを設定し、連携ツールは嚥下調整食形態一覧表の活用、栄養情報提供書の活用、栄養スクリーニング・アセスメント表の作成と活用に取り組む。

意見・質問

近藤理事

栄養情報提供書のひな型の作成とあるが、病院はそれぞれひな型を持っているが、この作成したひな型はどこで使用するのか。

情報提供書が今現在活用されていない。また、最新の情報が提供されていないのが実情。是非とも栄養士からの情報提供を行っていただきたい。

久志田部長

今現在従事している現役に加わってもらい現状の課題を出し、栄養士間のやり取りで適

切な食事が出せる必要な情報を盛り込んだツールの作成、そしてその活用をどうしていくかが今年度の課題である。

○栄養ケア・ステーション部からは報告事項のみであった。

②定時総会発言通告書について 柄沢専務理事より説明があった。(資料②)

・定時総会での発言通告書が4点あり、回答案を提示した。

(資料②のとおり)

質問・意見

小川理事

児童福祉分野での取り組みについては、公衆衛生事業部では小児肥満発育調査を行っており、  
昨年は生涯教育研修会においても取り上げているので、回答に明記していただきたい。

また、発言された方の職域等が分かれば今後の対応に反映できるのではないか。

稲村顧問

回答は担当の職域の方に書いてもらうのが良いと思う。

久保理事

栄養教諭の定数改善について、連盟の紹介があったが、学校健康教育では栄養教諭議員連盟  
を応援している実情があるところをご理解いただきたい。

入山顧問

日本栄養士連盟では栄養教諭の定数改善について昨年かなり力を入れて活動してきた。

これは数の力になってくるので、両方で活動して頑張ってもらいたい。

○今回の発言通告書の回答はそれぞれの担当理事に作成してもらい、メールにて承諾をとり HP  
に掲載することとした。

③支部体制づくりの今後の予定について 柄沢専務理事より説明があった。(資料③)

・2024年度は6支部の新体制づくりを進める。現在実態調査を精査し、地域栄養ケア窓口担当  
者を選出した。今後 HP に進捗状況を掲載し、他職種団体関連会議の主催者宛てに説明を行う。

○支部体制づくりは報告事項のみであった。

④役員改選に伴う選定基準及び役員選考委員会について 柄沢専務より説明 (資料④)

・支部長の選定基準は メール、Zoom ができ、理事会に出席すること。

支部体制の変更に伴う支部役員の選出については支部長・副支部長・事務局・HP 委員を選出  
する。(兼任も可)

その他の役員は支部の実情に合わせて各支部で決定する。

・役員改選に伴う役員選考委員の選出は現任理事より2名選出する。

推薦、立候補がなかったので執行部より小林医療事業部長、江口福祉事業部長が提案された。

○現任理事からの役員選考委員選出について小林医療事業部長、江口福祉事業部長が承認された。

⑤認定栄養ケア・ステーションについて柄沢専務より説明があった。(資料⑤)

今年度新たに新潟中央ヤクルト販売株式会社が認定栄養ケア・ステーションとして認可された。新潟県で第3号である。2023年度は「栄養相談・食生活相談イベント」の開催を県栄と協働で行う予定。

○ 認定栄養ケア・ステーションについて報告された。

⑥会員数について 阿部事務局長より説明があった。(資料⑥)

・2023年度6月5日現在の会員数は1104名。昨年より111名少ない。現在未納者は92名である。

未納者は事務局からもお願いはしているが、理事からも会費納入の声かけをお願いしたい。退会者を検証すると20年以上在籍された方の退会も多いが、働き盛りの会員の退会、入会して翌年退会するという方もいる。

・北林理事より会員増対策について提案された。支部事業を行う際に養成校へも案内を送り学生の参加を促す。支部の愛着、先輩栄養士から話が聞けることが、卒後の入会につながることを考えられる。

○養成校への案内については、県栄より養成校へその旨を伝え承諾をうけてから開始することとした。

また、会員増対策についての提案をしていただきたい。

(2) 報告事項

地域ケア個別会議について 石澤副会長より説明があった。(資料「地域会議」)

10 議事終了あいさつ (渡邊副会長)



上記の議事録に相違ないことを証するため、記名、押印する。

2023年 7月 3日

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席監事 印

出席監事 印

議事録作成者 事務局長 阿部 幸子